
ADULT ONLY
Limit Break Vol 1


うぉあぁ
やぁあ
…しかし…
ゴォオオォ…
大丈夫か嬢
クラウドの奴は……


お医者の先生の話じゃ、もう元に戻らないって言ってたじゃないか・・・
・・・バカ!!
何て事言うのよっ
ホンマやでバレットはん
今は猫たホクらだけでも・・・
ムニュ
はァ・・・
ヤァん
でも・・・もし本当にこのままクラウドが元に戻らなかったらオイラ達
・・・


はっ
ったく・・・・
はァあ…
いいか?今俺達が
何だ?
ガン首揃えて不平不満を
並べ立てる事か?
そうじゃねえだろう!!

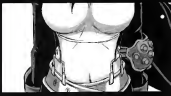

俺達は俺達に――
今、出来る事をやるだけよ!!
や… 膣内は…
ドプッ
ビュッ
ビクン
あ゛あ゛
シド……



あいつらなら…大丈夫だ
ハァ…
ハァ…
心配無え…絶対!!
ハ…ァ
…クラウド…
姉ちゃん…
待ってろ……



Limit Break




もう一週間たつよね!!
バレット達
どうしてるかなぁ?
ねぇ クラウドー


クラウド―
クラウド君の
先生―
そうか


先生 クラウドは… クラウドはいつになれば
何度もきくが…
ここまで重度の魔晄中毒患者は
――今まで見た事が無い…
今こうして息をしている事自体奇跡の様なものなんだ……
だが……っ
……っ


絶対…絶対に諦めてはダメだぞ
クラウド君は必ず元に戻る
頑張るんだ、いいね？
せ…先生
…はい
…
大声を出してすまなかったね
君も疲れただろう
コーヒーを淹れたんだ
すっ
一息いれなさい。



……ありがとう
ございます
どうかね？
コーヒーは少し
自信があるんだが
本当に　ありがとう
ござい……ま
おいしい……こんなに
おいしいコーヒー初めてです
そうかい？
それはどうも
ぜん…せ…
い…


……
あれ
いけない――わたし――
寝ちゃったんだ……
お目覚めかね？ティファ君。
あ ごめんなさい 先生――わたし


え…
何…？
!?
何なんですか
これは!?
え…
先生…一体
どういう――


こんな辺鄙な所で
診療所なんかやっているとね
何か大きな事件が起こる訳でも無し
毎日がそれはそれはヒマなものなんだ
若い連中は皆
島を出て街へ
行ってしまう、
実に淋しいよ
もう私の人生も
この島と一緒に
終わってしまうのでは
と思い諦めかけた
所
ティファ君――
君が現れた


…ええ
この週間ずっと君を見てきたけど いや 君は本当に素晴しい女性だよ———
特にその胸!!
もう少し—


!!
ほほぅ、これはこれは
長い間医者をしていて 女性の胸なんど飽きる程見てきたつもりだったが
これ程見事な乳房はお目にかかった事が無いよ


型といい
張りといい
ギれむっ
ル
ギれむっ
この大きさにして
ムッ
この弾力。
ぱっ
ぷるんっ
どこを取っても
むにゅ
むにゅ
非の打ち
所が無い!!
ただ──
キュッ
い…っ
ビクッ
ギュウウッ
う・・・


感度もどうもいいみたいだなぁ
どうしたんだい？
我慢せず声を出しても良いんだよ？
ク…
クラウドは
クラウドは!!
クラウドはどうしたんですか!?


ああ－－なるほどねェ
安心したまえ
彼には何も
してはいないよ
ははは……
そうかそうか
彼に自分のいやらしい姿を
聞かれたくないという訳だ
でも……
心配しなくても大丈夫
何しろ－－－
むぎゅうぅぅ
ッ


彼はもう
廃人だ。
目も見えない
耳も聞こえない
体を動かす事も
出来やしない
只 呼吸を
しているだけの
文字通りの
生きる屍だよ
で…でも…!!
先生…ッ クラウドは絶対
元に戻るって言ってくれたじゃ
ないですかぁ!!
あ…
あれね…


ウソに決まってるでしょう
ムッ
あうッ
ドクン
まさか――


ふふふ……さてと——


君の自慢の その大きな胸――
ちょっと汚させてもらうよ
ッ…やッ
ほほっ!!これはすごい!!


うっ
この感触、この乳圧、想像以上だよっ
ズッ
ズッ
ズッ
くうっ
ううう
はっ
はっ
テファ君、君の胸は本当に素晴らしいっ
えっ!!
ビクッ
ビクッ
うあっ!!
ビクッ
ビクンッ


ヤッ…あっ…あ
…あっ…
かはっ
いやいや すまなかったね 私だけ気持ちの良い思いを させてもらって――
まァ そんなに怖い顔 しないでおくれよ


ふふ じゃあ次は
一緒に気持ち良く
なろうね〜――
ゾゾッ
ゾク
ッ
ゃっ
なっ…
何をするん
「何」って 言わなくても
わかるでしょう?
はぁ
はぁ
ふふ ティファ君の
おま○こは どんなかなぁ
…どれどれ
ゃ・う・


!!
はは・っ
なんだなんだ
体の方はしっかりと反応しているんじゃないか!!
ビチャ
トロォ
どれどれ?
みむ
さァ挿入れるよ
ほらもっとカを抜いて
十分に濡れているね
よし
では



スッ…くぅ…
う…うっんっ
んっ あっ


ふっ
えっく
…んっ
くーんっ
んーっ
君もなかなか強情だねェ…
はっ



ギッ
ッ
君の気持ちもわかるが
我慢は身体に良くないよ
クラ…
クラウドォ
ごめん
本当は気持ち良いんだろう？
ほら聞いてごらん君の
お○んこの音すごいじゃないか


何か強大な魔法の力によって
世界が滅びようとしている事
それを止める為にはどうあっても
あのクラウド君の力が必要だという事も
だが あれから二週間
君の仲間からは何の連絡も無いし
クラウド君の容体も良くならない
だから わたし達が



もう、
諦めたらどうかねェ？
そんなら――
残された時間をお互いに
楽しもうじゃあないか!!
さ
最低
あんたの思い通りに
なんてならないわ!!
絶対に!!
ははははは


うるさい!!
このヤブ医者!!
みんな、みんなこの世界の為に一生懸命がんばっているのに・
あんたなんて地獄に堕ちればいいんだわ!!
あやまあ何とも口の悪い娘だねえ
これは少しお仕置きの必要が……いやいやご褒美になってしまうかな？
どんな顔を見せてくれるのか楽しみだよ――
クククク……


!!
うそ…あ…
ク　クラウ　ドッ



い…
いやっ、やあっ、クラウド…っ
おねがいっ…見ないでェッ!!
嫌あぁぁぁ
キュウウウ
締め付けすぎて痛いくらいだよ


いやあァッ
やめてェッ
お願いイ
クラウドにこんな
姿見せないでェッ
いやっん
あっ
あんっ…あっ
おあっ…


あァ…
あァあァ
アァあ…
ビクン
あはははっ、イったみたいだねェ!!


…今日はここまでにしておこうか
どうもお疲れさまティファ君――
これからもよろしく頼むよ……
世界が終わるその日まで…
To be Continued...



NNZ団